

令和4年度に実施する市民参加について

■基本方針で示した市民参加のあり方

- ◇ 多様な世代や立場の人との関り
- ◇ つながりや関係づくりを重視した市民参加プロセスによる参加機会の拡大
- ◇ 学びや気づきを得られ、主体的な参加につながる仕組みづくり

■西東京市第3次総合計画策定における市民参加（案）

- ① 市民に広く周知するキックオフイベントとしての「まちづくりシンポジウム」
- ・ 令和4年度前半に市民参加のキックオフイベントとして開催
 - ・ 審議会委員などから次の10年に向けたキーワードやテーマについて示唆していただき、計画づくりへの参加や協働まちづくりへの機運を高める
 - ・ R3実施のヒアリング対象者から、今後のまちづくりや協働に対する思いなどを報告

- ② 参加者のターゲットを定め、計画内容を検討する「市民ワークショップ」
- ・ これからのまちづくりに向けた重要なテーマを設定して実施
(全2回で完結するワークショップを2クール実施する)
 - ・ 立場別の悩み・課題や市政に対する要望、課題解決に向けた取組等を検討
 - ・ 内容に応じて、立場別グループや混成グループを編成

【ターゲットとする立場（案）】

立場（世代）	対 象
次代を担う子ども世代	市内在住の中学生・高校生
子育て世代	小学生までの子どもがいる保護者（男女）
独身若者世代	20～30代の独身男女
次代の地域を担う世代	40～50代の男女
健康長寿を目指す世代	60歳以上の男女

- ③ 市民参加の場に出てこられない人の意見の聴取「ポスターセッション、アウトリーチ」
- ・ 多様な市民の意見を聴取するため、パブリックなスペースやイベント、特定の団体に出向き、まちづくりにおける具体的な課題や解決策を聴取

※ 基本構想と基本計画に反映するためには、令和4年10月までに終了する必要あり